



Key Parson Interview II

# 町の住民として 地域で暮らす猫と どのように関わるか

水沢東上野町 町内会事務局長  
住民の先頭に立ち「地域猫事業」に取り組む

岩淵 由佳子 さん (49) =水沢東上野町=

### 住民の手で野良猫問題を解決

私が暮らす東上野町では、10年以上前から飼い主がいらない野良猫の問題に悩まされてきました。特にここ数年は野良猫の数が増え、ふん尿や鳴き声、畑を荒らされたなど苦情が一気に増加しました。町内会の会議でこの問題は毎回議題が上がっていましたが、打開策を見つけることはできませんでした。問題を解消するために猫の事を調べる中で「地域猫活動」という言葉に出会いました。「地域猫活動」とは、地域に住む住民が主体となり、野良猫に不妊・去勢手術をして餌やりやトイレ



町内に「さくらねこだより」を配布し、活動を周知しています

の世話などの適切な管理を行う。そして野良猫の数を減らすことでトラブルを解決し、猫の数を増やさずに「住みよい地域」をつくるという活動です。地域猫活動の一連は、「TNR活動」と呼ばれ、「Trap (捕まえる)」、「Neuter (手術する)」、「Release (放す)」の頭文字を取った名称で呼ばれることがあります。また手術した猫には、手術実施済みの証として片耳の先にV字カットを入れます。その耳の形がサクラの花びらに似ていることから「さくら猫活動」とも呼ばれています。「なんとかこの問題を解決したい」と昨年7月に保護猫団体の方をお招きして講演会を開き、地域で猫との関わり方を学びました。その後具体的な活動計画を作成し、話し合いを重ねた結果、正式に町内会事業として「地域猫活動」を行うことが決定しました。最初は皆さんに「地域猫」について

自分が飼育している猫ではありませんが、地域の一員としてどう接していくべきなのかを考えるきっかけとなる町でも、サクラ耳の地域猫を見かける日が来てほしいですね。

知ってもらうため、広報紙を作って回覧板や掲示板などお知らせしました。また、「地域猫活動」は町内の皆さんの理解と協力が成り立たない活動です。活動を始めて間もなく、活動に使うタオル類が足りなくなりました。回覧板で寄付を募ったところ、あっという間にタオルやシャツ類が集まり、皆さんの温かい心を感じました。捕獲時には町内の皆さんの協力もあり、昨年は14匹、今年は10匹を手術しました。毎年春と夏には子連れの猫をよく見かけていましたが、今年は見えないので、確実に成果が出ていると思います。



活動の中で出会った一匹は岩淵家の新しい家族に。名前はニャン太くん

Key Parson Interview I

# 犬の登録と 狂犬病予防注射は 飼い主の責務

県獣医師会水沢支会 狂犬病予防注射責任担当獣医師  
おおいし動物病院 院長

大石 直樹 さん (49) =前沢字新町裏=

### 予防注射の大切さを知ってほしい

犬は猫と違って、市役所に登録手続きをする義務が法律で定められています。飼い始めたらずに登録していただく必要がありますし、住所の異動や亡くなったときにも手続きが欲しいので、この点は住民異動に似ていますね。また、生後91日を超えると狂犬病の予防注射をしなくてはなりません。こちらも法律で定められています。犬の登録は生涯に一度ですが、予防注射は毎年一度受けていただきます。「狂犬病」という病気をよく耳にす

犬の登録をすると「鑑札」を、予防注射をすると「狂犬病予防注射済票」をお渡ししています。忘れずに手続きをしてください。最近の傾向としては、新しく猫を飼う人が増えている印象があります。また、室内で家族と一緒に生活する動物が増えてきているので、ともうれしい気持ちになりますね。動物たちもきつとそう思っています。動物を飼うということは、私たちの癒やしにもなります。また、昔と比べると最近は大・猫をはじめ動物たちの飼育環境がかなり良くなり、動物の長寿化が進んできています。動物を新し



鑑札と狂犬病予防接種済票

んな病気が知っていますか。狂犬病は発病するとほぼ死亡するといわれている恐ろしい病気です。日本では長い間発病が確認されていませんが、犬にきちんと狂犬病の予防注射をしていることが背景として挙げられます。人が狂犬病にならないために、予防注射をして犬に免疫をつけさせてあげることがとても大切です。



「動物たちには、たくさんの愛情を込めて接してあげてください」

く家族として迎えるときは、飼い始めも大切ですが、最期までみとることもしっかりと考えてほしいと思います。あとは獣医師の視点からお話しすると、ぜひ飼い主さんにはかかりつけの動物病院をつくっていただきたいです。病気の時以外にも、ワクチン接種や寄生虫の予防などで定期的に通う動物病院もかかりつけになります。診療時間外の対応や、急な事態でペットを預けなければならぬ場合など、かかりつけがあれば相談しやすいです。通院してもらおうことで病気の治療や予防だけでなく、獣医師との信頼関係を築くこともできます。県獣医師会では、9月末まで犬・猫不妊手術に対し抽選で助成を行います。手術を検討している人や相談事がある場合には、気軽にお近くの動物病院にご相談ください。